

令和7年度「新規就農者と先輩農業者等との交流会 in かがわ」開催!!

令和8年1月27日に「新規就農者と先輩農業者等との交流会 in かがわ」を開催し、新規就農者59名、先輩農業者23名の参加がありました。

まず、『自身の特徴的な取り組みと新規就農者へのアドバイス』と題して、先輩農業者の「まんのう町今田氏」及び「さぬき市飯田氏」より、事例発表をしていただきました。

その後、高松市農業青年クラブ連絡協議会等の農業者団体の紹介をした後に、グループワークを実施しました。

グループワークでは、新規就農者が日ごろの悩みの解消や同品目・同地域の仲間づくりを目的として積極的な意見交換が行われておりました。

参加者からは、「経営計画の振り返りが重要なことが分かった」「販路拡大の際に参考になることを学べた」「グループワークは有意義な時間だった」等感想がありました。

県では、引き続き、新規就農者が、経営発展に係る課題解決について、先輩農業者からの適切な助言を得る機会や、ネットワーク構築やスキルアップの場を提供していきます。



事例発表（まんのう町 今田氏）



事例発表（さぬき市 飯田氏）



グループワークの様子



グループワークの様子

令和7年度グループワークでの相談事例

テーマ	新規就農者の悩み	先輩農業者の回答
就農準備	次年度から新規就農予定。今のうちにしておくの良いことはあるか？	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕がある、または作付面積が小さい分、フットワーク軽くなんでも試してみる。（少し将来を見据えて） ・相談相手となる人脈づくり。 ・簿記。（数字の管理ができるように） ・数年後の夢・ビジョンの検討。
栽培	自分に合った品目がわからない。	まずは1年間栽培してみると、向き不向きが分かってくるので挑戦してみるとよい。
	地域で作付けされている品目の方がいいのか。（新しい品種にも挑戦してみたい。）	J Aには部会があるので、部会に入り人間関係を築き、部会で相談するのがいいと思う。地域とのつながりを大事にして、相談できる仲間づくりしてほしい。
	果樹が成木になるまでや作業がない時期に、どんな品目をすれば良いか。	果樹の種類によって異なるが、端境期に収穫できる作物を逆算して、どんなスケジュールになるか試算して、お試しで栽培すべきである。
	野菜を出荷場に問題なく取ってもらえるようにしたい。	収穫できるものは確実に収穫すること。ロスの原因を考えるとともに、前もってシーズンの気候を予測し、対策を考えておく。ほ場で捨てるお金がないように。
資金	経営やお金に対して、漠然とした不安がある。	悩み事は、周囲の農業者や関係機関に頼る。お金に関しては、比較的いい状態（借入等がない状態）のときから金融機関とつながりを持っておくと良い。
	就農1，2年目からお金をかけた方がいいものを知りたい。	明確な目標と計画を立て、それに見合った投資をすべき。資材が、多く必要なものは研修や知り合いの手伝いで経験し、自信がついてから収集するのが良い。
	農業経営を続けていくなかで、大きく赤字になってしまう年（気候、病害虫、本人の病気等）が心配である。	気候や病害虫に対しては、早めの対応が大切。有効な資材等、日ごろから知識をつけておくこと。収入保険にも入れる余裕があれば入っておくのが良い。（精神面でも安心できる）
	資金の苦労話を聞きたい。	2年間は夜のバイトで生活費を稼ぎ、昼間は農作業をした。イチゴは毎月収入が無いため、バイトで半年間の運転資金を確保した。毎月決算し、悪い情報は早めに金融機関に伝達した。

テーマ	新規就農者の悩み	先輩農業者の回答
農地	農地の確保について、就農前に十分準備ができず苦労した。できれば集約化したいが難しい。	普及センターや農地機構等の関係機関と連携を十分に取ってほしい。 地域の人から農地貸借の話がくることもある。人脈を築きながら情報収集すれば見つかりやすいので、地道に挨拶や声掛けなどをしながら人脈を築いてほしい。
	借入できた農地の日当りが悪く、作物の生産が良くない。どうすればよいか。	秋冬作は、トンネル等資材で対応する。逆に夏場にネギを植えると高温対策になる。圃場の特性に合わせた品目選定や栽培管理が大切。
	借りた農地が水田であった。地主の許可を得て花崗土で土壌改良を行った。農地を借りるときに気をつけることはあるか。	農地によって、栽培できる品目は異なると思うので、普及センターに相談するように。 農地があっても飛びついてはダメ。まず大切なのは家から近いことであり、圃場の状態をよく観察し焦らず検討する。 関係機関に農地を探していることを相談することで情報が手に入ることもある。人間関係（水利関係等）も構築しておくこと。
規模拡大	どのぐらいの期間ごとに面積拡大を行えばよいのか。 （ブロッコリーや麦）	ブロッコリーは、少しずつほどほどに増やすのがよい。 麦類は、導入するならばある程度広い面積を自分で栽培すること。
	農地の規模拡大は、どうすれば良いか。就農地と住居が異なると特に大変である。	まず、貸借できた農地で一生懸命農業しながら横のつながりを増やしていく。長期的に交流することで良い農地が見つかることがある。
	法人化のタイミングは就農前か後か。	小規模でも成功事例はある。 大手との取引は法人化が必要かも。
雇用	繁忙期の人材（短期バイト）は、どの様に集めているのか。	アグリワークやタイミーを活用している。 ただし、初心者なので、単純作業しかお願いできない。来ていただいた方で覚えが良い方には、再度の応募をお願いしている。
	果樹経営を行う中で、これから木が育って人手が足りなくなると思う。どのように雇用していけば良いか悩んでいる。	アグリワーク、タイミーなど色々な方法はあるが、自身の経営ビジョンにあわせて雇用していくべき。人手が足りないからやみくもに臨時雇用を増やすという手段をとるのではなく、長く続けてもらう正社員を雇用するという手段も考えても良いと思う。

テーマ	新規就農者の悩み	先輩農業者の回答
雇用	従業員が増えるに伴い書類の作成が不安である。	費用はかかるが税理士に税務を依頼してはどうか。
コミュニティ	いろいろと悩み事ができた時に、どこの誰に相談すればいいのか分からない。	品目ごとのベテラン農家に相談するのがよい。 普及センターに相談すると、ベテラン農家とのつながりができる。
	現在、夫婦で作業し、営農している。今は円満にできているが、先輩農業者から円満の秘訣として、「作業がかぶらないように工夫すること」と聞いた。そういった家族間での工夫はあるか。	「妻・家族を説得できない、納得させられないなら、農業はやめたほうが良い」という考えを以前先輩から聞いた。営農計画・投資計画・作業計画どれを取っても、説得できない、納得させられないということは家庭にとって無茶な計画ということ。そういった面からも固い計画を立てること、家族に負担をかける意識が大事。 作業以外についてもコミュニケーションをとる。農業はあくまで仕事。手伝ってもらっているなら労いの声掛けも大事。
経験談	やって良かったことや失敗したことはあるか。	成功は、JAのGAP指導は良かった。マニュアルを作るので従業員教育が楽だった。 失敗は、ハウス等の施設を早めに作った方が、経費が削減できることだった（段階を追って1つずつ作ると高くなった）。
	就農してからの苦労・失敗と、その乗り越え方はあるか。	体力面での負担が非常に大きいため、とにかく体を第一に考え、無茶はしないこと。失敗しても折れないメンタルを持つこと。 暇な時間を作らない作付計画をつくること。まずは技術を習得し、目標単収をとることを目指すこと。